

「避難区域等の住民の皆さまの こころとからだの健康を見守ります」

東日本大震災と、東京電力福島第一原子力発電所事故で困難な状況に置かれている県民の皆さまの「こころ」や「からだ」の健康上の問題を正しく把握し、適切な保健・医療・福祉のサービスを提供するとともに、将来の子どもたちの世代に向けて、自然災害時や緊急時における「こころのケア」のより良いあり方を受け継ぐことを目的として「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施しています。

県民健康調査の「こころの健康度・生活習慣に関する調査」とは？
(福島県立医大放射線医学県民健康管理センターウェブサイト) より作成

【対象者】

震災時に避難区域等に住民登録があった方、約21万人。

〔年齢区分〕0～3歳、4～6歳、小学生、中学生、一般（16歳以上）の5つ

【調査方法】

対象者の年齢区分に応じて、調査票（自記式又は保護者回答）を作成し配布する（回答は郵送またはオンラインで受付）

【主な調査項目】

- ・現在のこころとからだの健康状態について
- ・生活習慣（食生活、睡眠、喫煙、飲酒、運動）について
- ・現在の生活状況について（「一般」）等

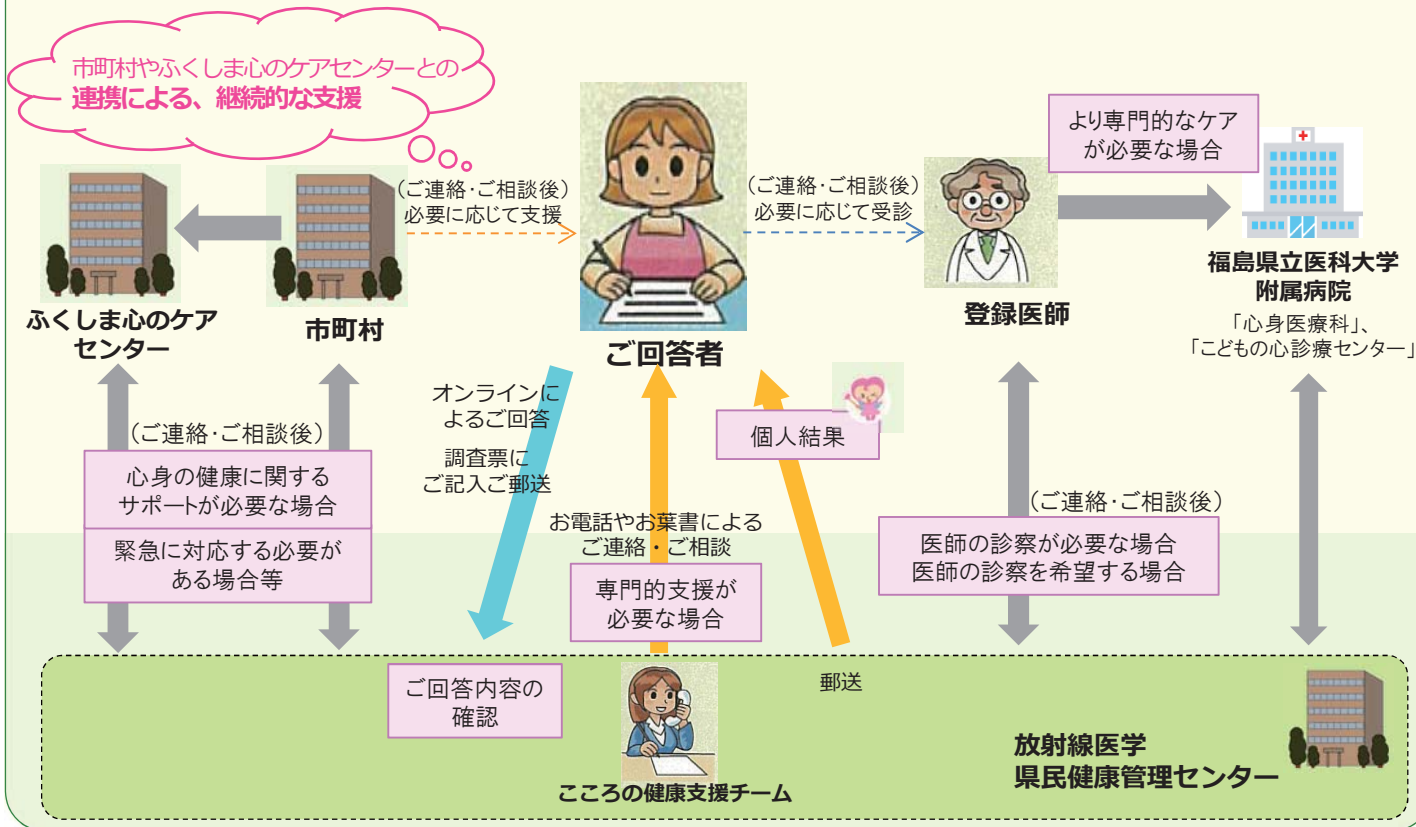
【回答後の対応】

回答内容から、支援が必要と思われる方には「こころの健康支援チーム」の臨床心理士、保健師、看護師等からお電話をさせていただき、こころの健康や生活習慣に関する問題についてアドバイスや支援を行っています。

また、継続した支援が必要と思われる方には、地域の登録医師や市町村、ふくしま心のケアセンターと連携し、継続的なケアを行っています。さらに平成27年度より個人結果通知書をお送りしています。

県民健康調査の「こころの健康度・生活習慣に関する調査」とは？
（福島県立医大放射線医学県民健康管理センターウェブサイト）より作成

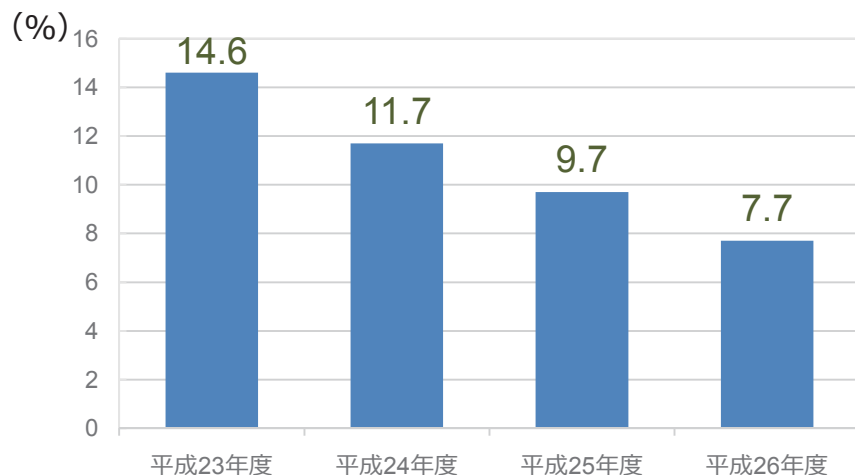
関係機関や医師が連携してケアをしています ～調査票ご提出から支援までの流れ～



	電話支援者数		文書支援者数	
	子ども	16歳以上	子ども	16歳以上
平成23年度	1,180	6,310	1,066	10,898
平成24年度	623	5,991	800	10,168
平成25年度	473	3,913	752	7,664
平成26年度	327	3,053	517	6,244

第11、15、19、22回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

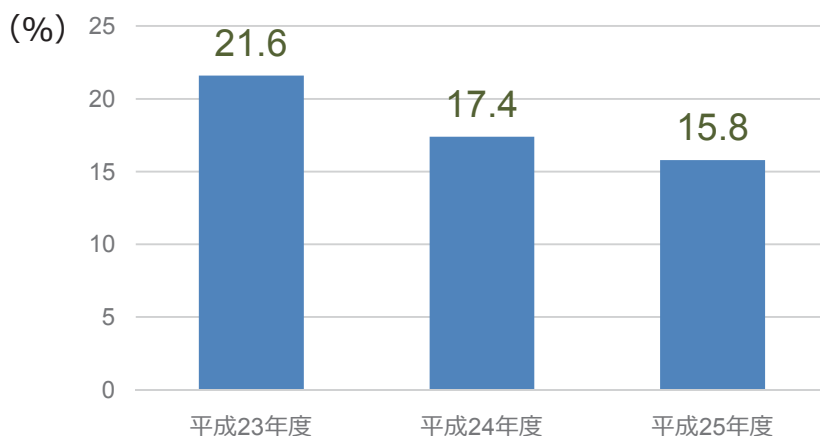
● 気分の落ち込みや不安に関して支援が必要と考えられる人の割合



測定尺度 : **K6***

*気分の落ち込みや不安に関する6項目に0～4点で回答。合計13点以上で、気分障害や不安障害の可能性を疑う

● 被災で生じた「トラウマ反応」に関して支援が必要と考えられる人の割合

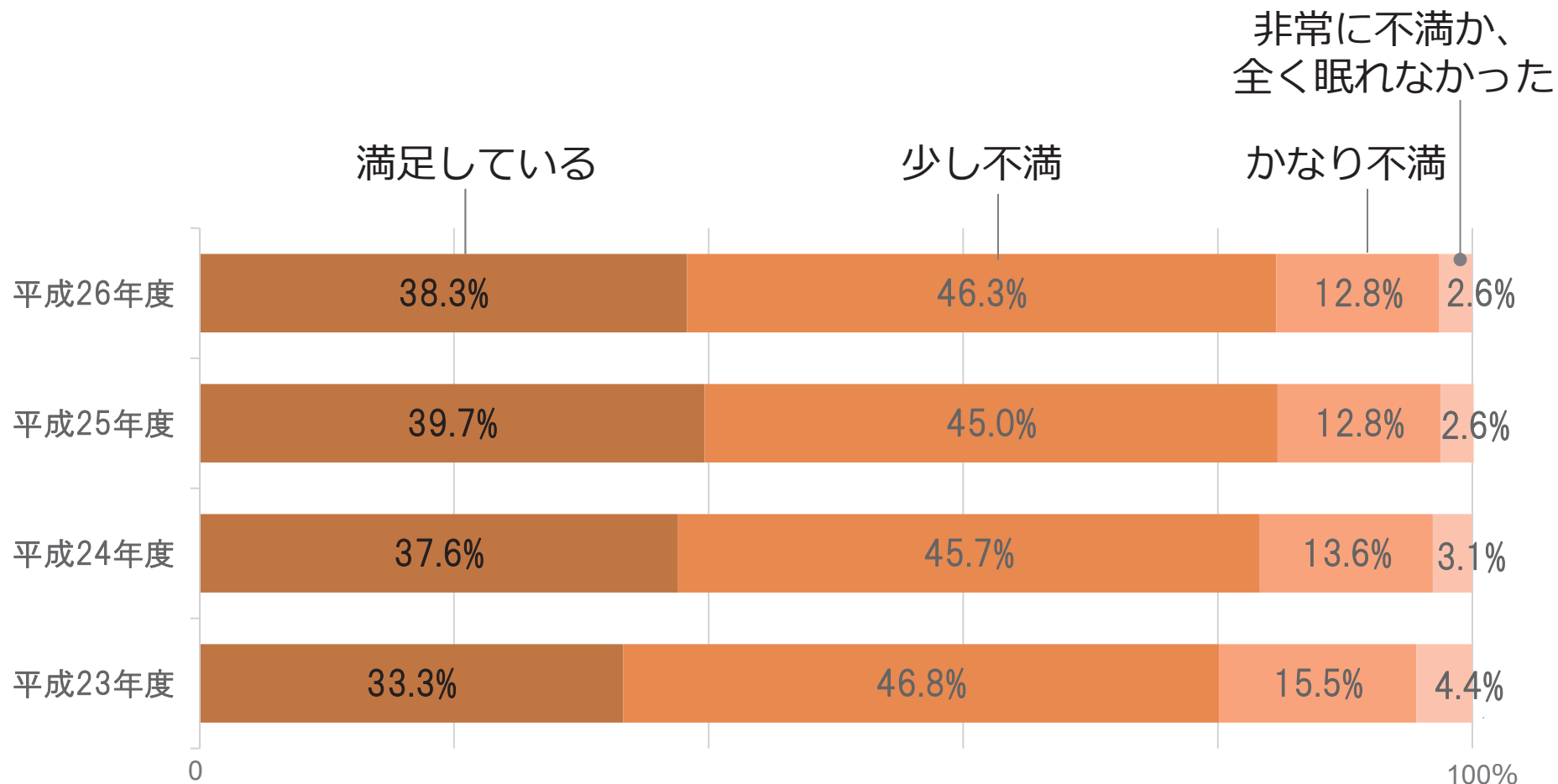


測定尺度 : **PCL***

*被災体験に対して、時々起こる問題や訴え(トラウマ反応)に関する17項目に1～5点で回答。44点以上で、PTSDの可能性を疑う

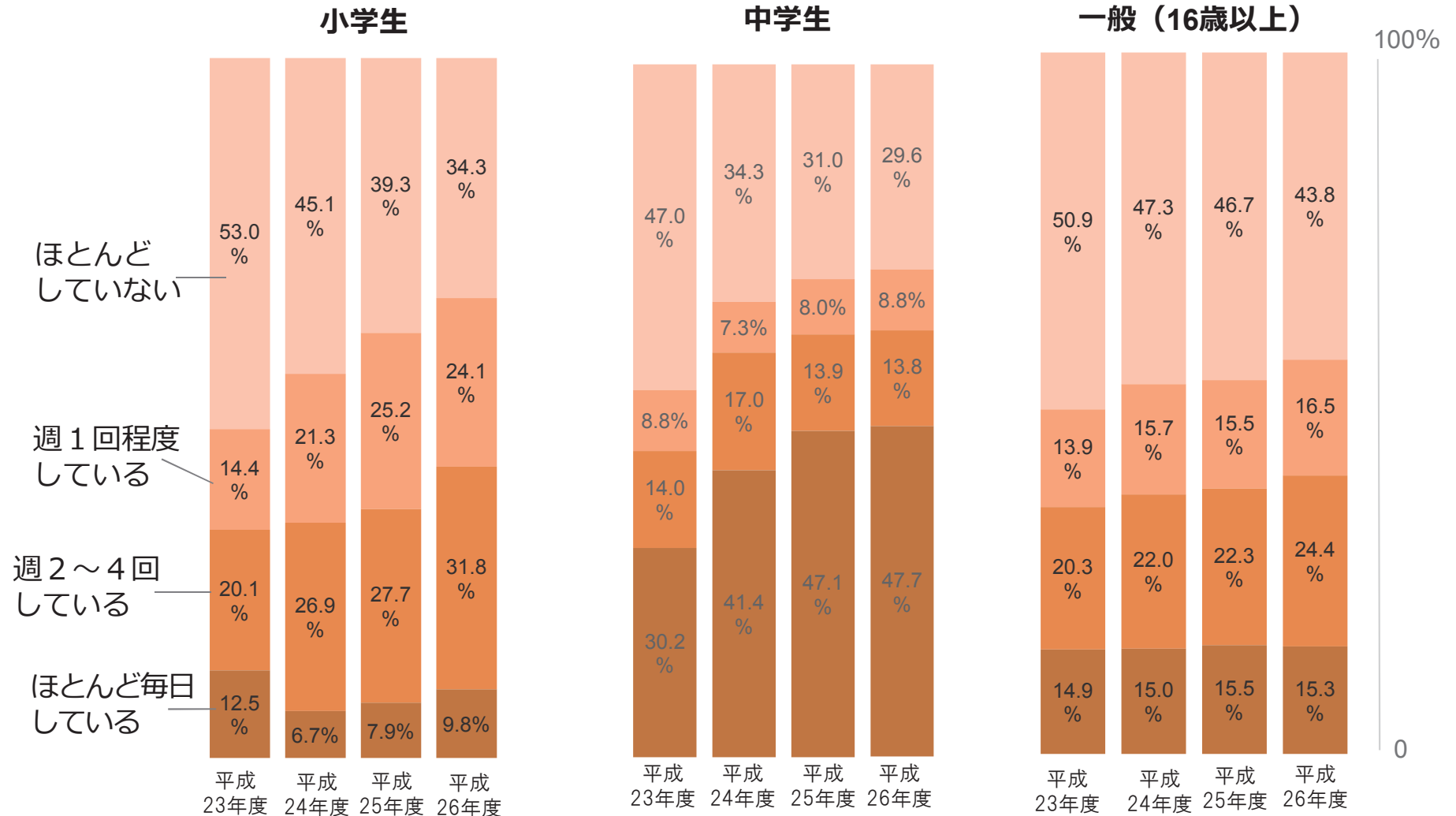
※回答時の負荷を軽減するため、平成26年度調査ではPCLに関する設問を設けていない

【最近1か月間の睡眠の満足度】一般（16歳以上）



第11、15、19、23回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

【普段の運動についての割合】



第11、15、19、23回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

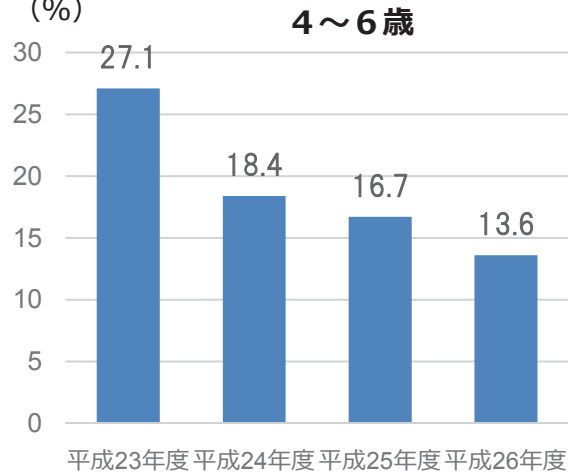
【子どものこころの健康度】

支援が必要と考えられる子どもの割合 (男女別)

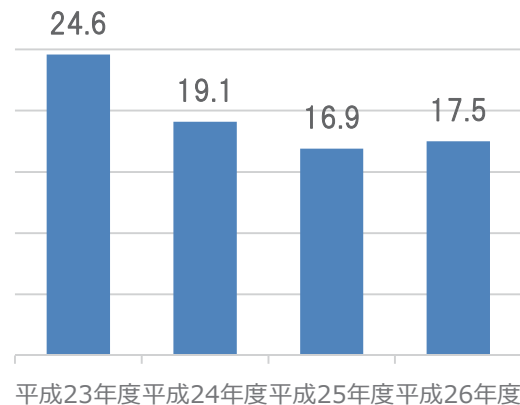
測定尺度：SDQ※
16点以上で支援が必要と考える

男児

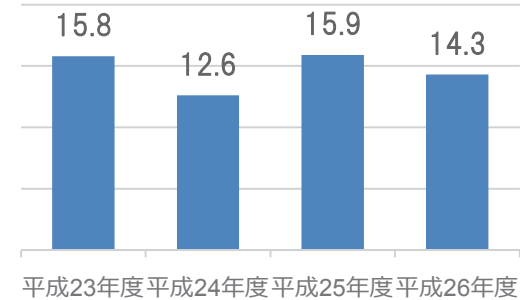
(%)



小学生

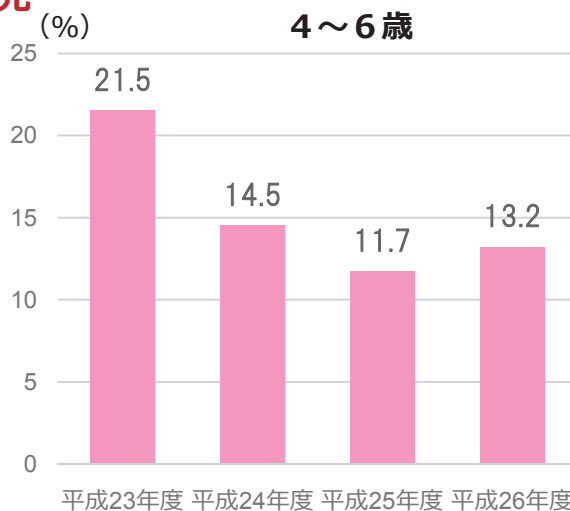


中学生

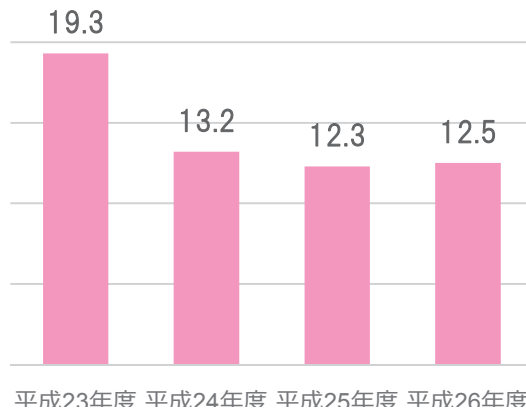


女児

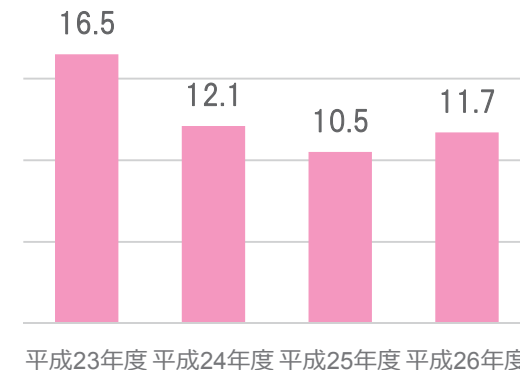
(%)



小学生



中学生



第11、15、19、23回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成